

平成 26 年 10 月 23 日

各 位

上場会社名 : 株式会社インタートレード
代表者名 : 代表取締役社長 尾崎 孝博
(コード番号 : 3747 東証マザーズ)
本社所在地 : 東京都中央区新川一丁目 17 番 21 号
問い合わせ : 取締役 丸山 與一
電話番号 : 03-4540-3002
U R L : <http://www.itrade.co.jp/>

ハナビラタケ共同研究開始のお知らせ

株式会社インタートレード（以下「インタートレード」）は昨日の取締役会において、学校法人東京女子医科大学（以下「東京女子医大」）及び独立行政法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）と 3 者で、インタートレード 100%子会社の株式会社らぼおぐ（以下「らぼおぐ」）が生産、培養するハナビラタケ（キノコ種）について、産学官一体となり共同研究（プロジェクト名：IT-はなびらたけプロジェクト）を開始する旨決議しましたのでお知らせいたします。

1. 共同研究の目的

ハナビラタケ抽出物及びその成分について、製品開発や製品改良により健康食品、創薬、診断などへの利用を進めるため、有効成分を細胞・分子レベルで探索し、有効性のメカニズムを明らかにしていきます。また、将来的には解明された有効成分について、医薬品や医薬品アジュバント、健康食品などとして製品化を進める予定です。

共同研究においては、前臨床試験に関するデータ解析は東京女子医大が、細胞及び遺伝子レベルの探索と成分分析は産総研が中心に行います。インタートレードはハナビラタケ抽出物に関する製品化と、情報の収集及び分析を行います。

2. インタートレードのハナビラタケ事業

インタートレードグループは 2 年前より、子会社らぼおぐが中心となり、栽培が難しいとされるハナビラタケの生産及び加工を行っています。ハナビラタケは上質なβグルカンやアミノ酸、その他有効成分を豊富に含むキノコです。現代社会は高齢化の問題に直面していますが、安倍内閣の健康長寿社会構想におけるひとつの提案として事業を立ち上げました。

現代は生活水準が高くなりましたが、その代償として様々な生活習慣に係る病気が増加しています。結果的に免疫不全などの特殊要因により、様々な病気を誘発していると考えられています。

弊社は現代病予防の観点より、健康体における免疫機能維持・改善の研究を行ってきました。その成果とともに、科学的データを取得するために、弊社ハナビラタケ製品による2種類の臨床研究（Ⅱ型糖尿病及びⅠ型アレルギー）を実施し有効なデータ（開示済）を取得しました。

次のステップとして、さらに深い領域であるその体内構造に関与する有効成分などを明確化するために、今回の共同研究を実施することにしました。ヒトの持つ様々な問題の解決策として、副作用に悩まない天然由来の安全素材が重要であると考えています。

3. ハナビラタケの可能性

ヒトの体は食べたものから出来ています。そして、ヒトの健康は食べたものに影響されます。

ハナビラタケは、食の安全、栄養など健康にとって欠かせない成分に恵まれています。ハナビラタケは標高1,000メートル以上、かつ限られた条件の環境にのみ生息し、夏場に成長する非常に珍しい白キノコです。様々な病気に効果、効用があることは知られていましたが、実際に天然のものを手に入れることは非常に難しく、幻のキノコと言われていました。しかし、最新の栽培技術により、この希少なキノコを高品質かつ大量に栽培できるようになりました。

ハナビラタケには、免疫機能に強く作用することが確認されている「β1-3D グルカン」(※1)を食材の中で最も多く（乾燥物では3割前後の割合、弊社調べ）含まれています。ハナビラタケは古来より食としての実績がありますが、近年では生鮮を大手スーパーでも取り扱うようになりました。

「β1-3D グルカン」の機能性は、様々な研究機関による論文や特許として確認できます。免疫細胞の活性時には、免疫活性物質（サイトカイン）産生が行われますが、健康維持には、その抑制とともに正常な調整が重要になります。そのために不可欠な活性素材（複合アミノ酸など）をハナビラタケは豊富に含有していることが特徴で、「β1-3D グルカン」との相乗作用を実現していると考えられます。このような効果を含めて、ハナビラタケには解明されていないことが多く、今後の研究が期待されています。

欧米では、薬に対する副作用などの不安から、安全な機能性素材が注目され始めていることもあり、過去より効果が確認されている有望なキノコ種に着目し、研究・解明を行う必要があると考えました。

昨年、インタートレードグループで実施したハナビラタケの機能性をヒト臨床などで確認した結果、以下の有用な結果を得ております。

- ・ HbA1c 値が下がっている。
- ・ GLU 上昇はプラセボと比較し押さえられている。
- ・ HOMA β 値がアクティブ群ではほぼ基準値（40～60）に収まっているが、プラセボ群では明らかに基準値を超えている。

これらのことから GLU とインスリンのバランス、または抵抗が改善傾向に向かっていることが確認できました。そして、医師などの専門家が、信頼性のある臨床研究が行われたかを審査し評価する仕組みとして「エビデンスクオリティ認証」(※2)の第一号承認を得ることが出来ました。

※1：βグルカンの中でもβ1-3Dグルカンは、世界の有力研究機関などにおいて、免疫細胞のレセプターである「TLR2」に作用することなどが確認されています。

※2：詳細は以前開示した内容をご参照下さい。

- 平成26年3月6日 株式会社らぼおぐ生産ハナビラタケ『LB-Scr』を主原料とするヒト臨床試験結果のご報告

<http://www.itrade.co.jp/-/raw/34/3236/23998/5/16/20140306.pdf>

- 平成26年1月9日 株式会社らぼおぐ生産ハナビラタケ『LB-Scr』を主原料とするヒト臨床試験完了のご報告

<http://www.itrade.co.jp/-/raw/34/3194/23699/5/16/20140109.pdf>

4. 提携先の概要

(1) 法人名	学校法人 東京女子医科大学	
(2) 所在地	東京都新宿区河田町 8-1	
(3) 代表者の役職・氏名	理事長 吉岡 俊正	
(4) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 大学の運営 医療に関する研究 	
(5) 基本金	170,117 百万円	
(6) 設立年月日	昭和 26 年 2 月 21 日	
(7) 当社と当該会社との関係等	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

(1) 法人名	独立行政法人 産業技術総合研究所	
(2) 所在地	東京都千代田区霞が関一丁目 3 番 1 号 (東京本部)	
(3) 代表者の役職・氏名	理事長 中鉢 良治	
(4) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 産業技術に関わる研究 	
(5) 資本金	284,741 百万円	
(6) 大株主及び持ち株比率	日本国 (100%)	
(7) 設立年月日	平成 13 年 4 月 1 日	
(8) 当社と当該会社との関係等	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

以上